

SOCIAL & CREATIVE

かっこつけてて、かっこわるい



<ゼミ生上田からの寄稿文>

合宿お休み中の彼女が、SNSなどを通して合宿を客観的に見て思っていること。

「俯瞰して、出来事と世界を結びつける」

マスコミは、自由だ。嘘をつくこともできれば、真実を誰かの都合のいいように誘導をしながら伝えることができる。その自由度だからできることがあると私は思っている。例えば、今湯河原にあるホテルにはいい記事を書こうと奮闘している学生がおり、熱気のこもった記事がFacebookなどを通して世の中に伝えられていく。これは世界では何を意味しているのだろうか。マスコミだからこそ、少し上からものが見える。意味付けとは少し違う、出来事と世界の流れを結びつけられる、そんな記事が読めるのではないかと期待している。

XXは全体の構成やフレーズ、タイトルの決定に戸惑っていた。

個人個人インタビューしたことから、記事を書いてく。「あの子に恋をした、1825日」「5年間、ひとりの女の子に恋をしていた少年がいた。」どことなく聞いたことのあるフレーズが並んでる。

かっこいいモノを創りたいけど、かっこつけたくない。けどかっこつけてる自分がいることに気が付いたよう。それぞれに文章を書きだした後、XXは集まった。メンバーの視点を入れることで、まずはレイアウトの修正が始まった。1つ気づくとまた気づきが出てくる。プロフィール、どんな集団なんか、何を書いているのか…。パッと見てわかる情報が抜けてることも気づいた。かっこいいっていう小さな視野に囚われすぎることで、全体の恰好がつかなくなっていた。

かっこいいモノを創る時には、今まで見たことのあるデザイン、フレーズを気にしてしまう。なんでかと言うと、そもそも自分の記憶の中でかっこいいデザインや響いたフレーズが強く残ってるからかもしれない。だから小さな視野になりがちだ。響いたかっこいいものに囚われ過ぎる。「響いたかっこいい」じゃなく、「響くかっこいい」を創ることが重要だ。(寺前)